

GATB 厚生労働省編一般職業適性検査

General Aptitude Test Battery

- 編 著：厚生労働省職業安定局
- 対 象：中学（2年生以上）・高校・高専・専門学校・短大・大学・職業訓練校・職業相談機関等
- 実施所要時間：紙筆検査 約45～50分、器具検査 約15分
- 測定するもの：9種の適性能（知的・言語・数理・書記・空間・形態・共応・指先の器用さ・手腕の器用さ）

検査の概要

概要

厚生労働省編一般職業適性検査（GATB）は、多様な職業分野で仕事をすすめるうえで必要とされる代表的な9種の能力（適性能）を測定することにより、能力面からみた個人の特徴の理解や適職領域の探索等、望ましい職業選択を行うための情報を提供することを目的としています。

適性能は、15種類の下位検査（うち11種類が紙筆検査、筆記検査、4種類が器具検査）を実施することで測定されます。

また、GATBでは、様々な職業を、その職業を遂行するうえで求められる適性能の種類と水準（所要適性能基準）により、40のグループ（適性職業群）に分けています。各被検者の適性能得点（結果プロフィール）と、40の適性職業群の所要適性能基準とを照合し、得意な能力（適性能）を生かすことができる具体的な職業例を知ること、幅広く適職を吟味できます。

個人の結果プロフィールでは、標準得点として適性能得点が用いられており、個人の尺度ごとの粗点（各検査の回答を集計して得られる得点）が、基準集団の中でどのあたりに位置づけられるかを明らかにすることができ、個人の特徴がわかるようになっていきます（平均が100）。
他者との比較ではなく、自分自身の中での得意、不得意を把握することも大切な視点です。

歴史

アメリカでは戦前から心理学者により心理検査の研究が行われており、米国労働省がGATB（General Aptitude Test Battery）を開発、1944年に公表しました。

日本の労働省（当時）は戦後GHQを通じてその提供を受け、使用許可を得ました。そして、日本版に翻案・改編し、大規模な標準化実験を行い、1952年に完成しました。以来、改訂を経ながら、現在に至るまで長期にわたり、学校や職業安定所等で広く使われています。

9種の適性能

知的能力

言語能力

数理能力

書記的知覚

空間判断力

形態知覚

運動共応

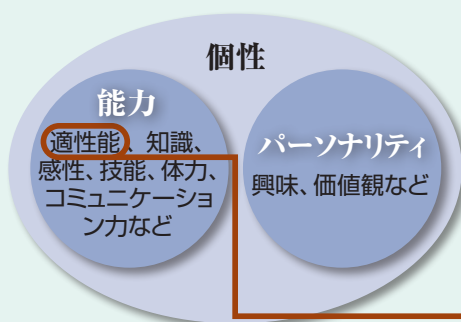
指先の器用さ

手腕の器用さ



Q GATBでは何を測定しているのですか？

GATBは、能力面を測定する検査ですが、能力の中の「適性能」を測定しています。



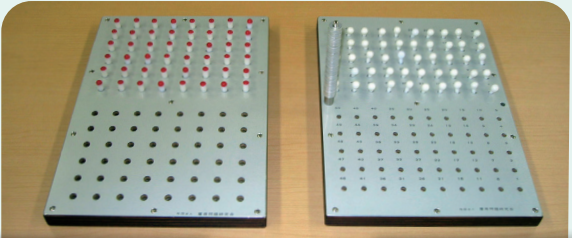
Q 適性能とは何ですか？

ある仕事を行うには、訓練したり教育を受けるなどしてその仕事に必要な知識や技能を身に付ける必要はありません。

それらを身に付けるための基盤となり、将来の職務遂行や職業訓練の成否に関係が深い能力を、GATBでは「適性能」と呼んでいます。

■ GATBで測定される9種の適性能

	適性能	内 容	典型的な作業	関連のある職業の分野
紙筆検査で測定（7種）	G 知的能力 General Intelligence	一般的理解力、推理、判断力、応用力	状況を分析判断する。工夫をしたり、新しいアイデアを出す。	調査研究、企画開発、営業、教育・福祉、販売サービス等
	V 言語能力 Verbal Aptitude	言語的な理解力、文章読解、表現力	文章を読み書きする。言葉で伝達したり、説明を理解する。	著述編集、報道、広告宣伝、営業、教育・福祉、法務、事務関係等
	N 数理能力 Numerical Aptitude	数的な処理能力、計算力、数的推理力	各種計算、集計作業、数量管理・分析、金銭管理などを行う。	調査研究、工学技術、測定分析、情報処理、経理会計等
	Q 書記的知覚 Clerical Perception	文字、記号などの比較弁別力、一般的な注意力	印刷物の校正、帳票の記載やチェック、表の作成等の作業を行う。	事務全般、運転監視、警備保安、看護、対個人サービス等
	S 空間判断力 Spatial Aptitude	立体的、構造的な理解力、図面から実物をイメージする力	設計図を理解したり作成する。造形的な作業を行う。	工学技術、製図、情報処理、デザイン美術、建設工事、熟練技能等
	P 形態知覚 Form Perception	形、図形などの比較弁別力	裁断、切断、切削、貼付け、取付け、接合、組立等の作業を行う。	製図、建設工事、デザイン技術、加工組立、造形、手工技能等
	K 運動共応 Motor Coordination	目と手の共応、迅速で正確な動作を行うコントロール力	キーボードの操作、素早い繰り返し作業を行う。	OA機器オペレータ、簡易事務、機械操作、加工組立等
器具検査で測定（2種）	F 指先の器用さ Finger Dexterity	指先で細かい物を正確に扱う能力	精密作業、小さい物を指先で取り扱う作業を行う。	機械操作、手工技能等
	M 手腕の器用さ Manual Dexterity	腕や手首を使って物を巧みに扱う能力	ハンドルやレバーを操作する作業、道具を巧みに扱う作業を行う。	機械・装置の運転操作、加工組立、造形、理美容美容等



Q 器具検査とは何ですか？

左記の2種類の器具（検査盤）を用いて、4つの検査を実施します。これらの検査で、2種の適性能（指先の器用さ、手腕の器用さ）を測定します。

検査時間 約15分

（左）手腕作業検査盤（ペグ・ボード）

- さし込み検査
- さし替え検査

（右）指先器用検査盤（エフ・ディー・ボード）

- 組み合わせ検査
- 分解検査